

# 三内丸山通信



## 新たな研究成果を発表！

— 平成二十年度三内丸山遺跡報告会 —

3月14日、縄文時遊館で平成20年度特別史跡三内丸山遺跡報告会を開催し、今年度の発掘調査と特別研究成果報告を行いました。

### 三内丸山遺跡など 北日本縄文遺跡の漆文化

岡村道雄氏（奈良文化財研究所名譽研究員）を研究代表者とするグループは、理化学分析を利用して、縄文時代の漆利用について研究しました。

三内丸山遺跡から出土した漆塗りの土器や木製品・漆液入りの土器の一部を分析したところ、使われているのは漆で、赤色の顔料はベンガラであることを確認しました。また、縄文時代前期中頃と中期後半の土を分析した結果、漆の種子が確認され、集落のそばに漆林が存在した可能性を指摘しました。

### 岩石考古学の構築

…岩石学の手法を用いた縄文石器の解析

前川寛和氏（大阪府立大）



研究発表の様子

学大学院教授）を研究代表者とするグループは、三内丸山遺跡から出土した石器について、顕微鏡やX線回折装置を用いた岩石学的手法で迫りました。

その結果、石斧に用いられる緑色の石は、アクチノ閃石と呼ばれる針状の鉱物が様々な方向を向く非常に珍しい構造であることがわかりました。それが衝撃に耐えうる「粘り」の性質を生み出しており、北海道

沙流川流域の緑色岩と呼ぶ石であることがわかりました。また礫石器に使われる安山岩は「マグマ混合」という過程を経て形成された種類であり、青森市の荒川採取の安山岩もよく似た特徴を持つことから、近隣で得られた石が盛んに用いられていたようです。

### 円筒土器文化圏における 食料加工技術の研究

上條信彦氏（弘前大学）は、三内丸山遺跡から出土した半円状扁平打製石器」という円筒土器文化圏に特徴的な礫石器の使用痕分析とその残存デンプン粒分析を行いました。

顕微鏡を使った表面の観察と実験の結果、堅果類などの皮をむく用途である可能性が高いことがわかりました。また根茎類のデンプン粒らしきものが残っており、ユリ根などを叩きほぐ

す役割があったことも考えられています。

### 石器残存デンプンから

みた三内丸山遺跡の植物利用の変遷

渋谷綾子氏（総合大学院大学）は、三内丸山遺跡から出土した石皿に残る「デンプン粒」を調べました。その結果、出土場所によって残存するデンプンの種類は異なる傾向があり、住居出土のものにより多くの種類のデンプンが残っていました。また残存デンプン粒の種類が時期によって変化していることも分かり、今後デンプン粒の分析を進めることにより、三内丸山遺跡の食用植物の利用の移り変わりが判明することが話されました。

### 講演会も 同時開催

遺跡報告会の後、早稲田大学教授菊池徹夫先生を講師に迎え、「縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて」と題して、世界文化遺産セミナーが開催されました。

菊池先生は、近年は世界遺産の登録基準が厳しくな

っており、採択率が低くなってきていること、国内の候補の現状など、最近の動向について話されました。また、タイにある先史時代遺跡の世界遺産を例に、縄文遺跡も学術的説明、世界史の中での位置づけ、建物復元などにより、充分に世界遺産登録に値すると言説されました。さらに、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」が世界遺産を目指す上で、三内丸山遺跡は「中心であり、旗手であり、エンジンである」という力強い応援メッセージをいただきました。



皆さん熱心に聴き入っていました



# あomorい縄文展大盛況!

九州国立博物館

平成20年11月22日から12月21日まで、福岡県太宰府市の九州国立博物館で「あomorい縄文展」JOMONを世界へ、三内丸山からの発進」を開催しました。

展示された土器や土偶、骨角器などは総数5000点を超え、その圧倒的な量と質の高さが話題を呼びました。また、九州では十数年ぶりにお目見えする青森県の縄文遺跡の出土品ということから、来場者は毎日千人を越え、23日間の開催期間中およそ4万6千人



展示室

数多くの展示品の中でもひととき来場者の目をひきつけたのは、展示室奥に展示された三内丸山遺跡出土のヒスイ製大珠でした。うす暗い展示室の中、ケースのスポットライトに照らされて美しい緑色がいつそう映え、自らが光を発しているように見えました。

期間最後の土日の12月20日、21日には、世界遺産暫定一覧表記載決定記念フォー



シンポジウム

の人が訪れました。

ラム」が開催されました。

テレビなどでおなじみの俳優・苅谷俊介さん、奈良文化財研究所名誉研究員の岡村道雄さん、文化庁記念物課の水ノ江和同さんによる縄文対談や、「激突! 北の縄文vs南の縄文」と題して縄文遺跡や出土品の北と南の違いや共通点などについて話し合われたパネルディスカッションなどに多くの来場者が熱心に耳を傾けていました。



パネルディスカッション

## 最新情報展開催中

特別史跡三内丸山遺跡では、集落の全体像を解明するため、発掘調査を継続しています。平成20年度は昨年度に引き続き、遺跡南西部の「環状配石墓」を調査しました。

そこで得られた情報を基に、発掘調査の成果を展示する最新情報展を「ザ・環状配石墓」と題して開催しています。

環状配石墓がまとまって見つかったのは三内丸山遺跡だけです。それだけに、未だ解明できていないことが多いのも事実です。

今年度の発掘調査では、墓穴部分の「埋葬部」と石を並べた部分の「配石部」との関係、配石部に使用された石はどこからきたのか、縄文時代の

道路跡に沿って列をつくる環状配石墓はどこまで広がるのかなどについて、明らかにすることができました。

企画展では、今年度やこれまでの調査成果を紹介しながら、「環状配石墓」の謎に迫っています。是非お越しください!

いよいよ  
世界へ!

青森県と北海道、岩手県、秋田県の12市町に所在する三内丸山遺跡は、じめ15の縄

文遺跡で構成される、北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」が、平成21年1月5日付けで世界遺産暫定一覧表に記載され、世界遺産の正式な候補になりました。

現在、日本の暫定一覧表には、縄文遺跡群を含めて12の資産が記載されています。

国は、暫定一覧表に記載

されたものの中から、条件が整ったものについて、原則として1年に1件を世界遺産委員会に推薦することとしています。

今後は、国が早い時期に推薦できるよう、文化庁や関係団体とともに条件を整え、世界遺産登録推薦書案の作成に取り組むこととしています。

### 三内丸山遺跡のご案内

休館・休業日  
12月30日～1月1日

遺跡の開園時間  
9時～17時(6月～9月は18時まで)  
(4月25日～5月6日は9時～18時)

ボランティアガイドの定時案内  
1回目は9時15分から  
その後は10時から1時間ごと、最終は16時から

問い合わせ: 017-766-8282

交通案内  
青森市営バス  
JR青森駅から「免許センター行き」、三内丸山遺跡前で下車

展示室の定時案内  
1日3回(約20分)  
(10時50分～、13時50分～、15時50分～)  
4月25日～5月6日は混雑するため、休ませてください。

問い合わせ: 017-781-6078



■開催場所: 三内丸山遺跡展示室 企画展示室  
■開催期間: 平成21年6月28日(日)まで  
■入場: 無料